

佐波川流域防災訓練IN 小野地区

[左岸:奥畑・久兼・和字・真尾]

[右岸:中山・奈美・鈴屋]

- 実施日 2008年7月21日(月・海の日)
- 場 所 小野小学校体育館
- 対 象 小野地区全域(7自治会)
⇒ 奥畑・久兼・中山・奈美・和字・鈴屋・真尾
- 時 間 8時30分 ~ 14時
- 今回の訓練の目的

自然災害[河川氾濫・土砂災害]に対する地域防災力を高めるため、地域の強さ弱さを把握し、発災時に住民が「どう！すればいいか？」という対応について、地域の拠点である小野公民館を核とした災害対応組織(仮称:小野地区災害対策連絡会議)が、情報収集・地域点検・関係機関調整・避難所運営など、住民の生命を守るため「今、何する時！」をキーワードに、実働による防災訓練を実施しました。

- 防災支援体制の確立
- 住民への「災害情報伝達」
- 災害時要援護者の搬送
- 水防活動の応援 ...等

防府市
指定避難所は
どこ！



● 訓練スケジュール

午前の部

8:30

開会式

あいさつ

佐波川流域防災訓練実行委員会

委員長 斉藤 清子

防府市役所

副市長 嘉村 悦男

オリエンテーション

佐波川流域防災訓練実行委員会 事務局

9:00

行政情報伝達&現地対策本部 対応訓練 開始

○漏水発見

⇒防府市消防団小野分団 出動

[水防工法(月の輪・シート張り)着手]

○小野地区災害対策連絡会議・各防災関係機関

⇒情報収集・伝達

10:00

「避難勧告」発令！

[地元住民、自治会、私設消防団参画]

○市広報車・県警パトカー「広報巡回」

○地元住民「避難行動」開始

○避難に関する問合せ・要望に対応

現地対策本部(連絡会議)に設置してある電話に問

い合せが着信 ⇒ 状況判断して「回答」「返答」

○逃げ遅れ災害時要援護者から「救援要請」

⇒ 救援活動・防災サインによる避難者誘導

○水防活動応援要請に対応 [積土のう]

○排水ポンプ車、照明車出動要請 ⇒ 出動

12:00

午前の部 終了

昼食の部

給食配給訓練 アルファーマイ＋カレー＋お茶

午後の部

12:50

「一級河川佐波川 災いの歴史」と「異常気象」

平成20年6月20日のゲリラ豪雨(時間雨量40mm)を検証

国土交通省山口河川国道事務所

パネルディスカッション

国土交通省、山口県、防府市、小野地区自治会長、

小野公民館長 他

13:50

閉会式「おわりの言葉」

佐波川流域防災訓練実行委員会 委員長 斉藤 清子

14:00

訓練終了

① 午前の部（情報収集・伝達、地元問合せ対応、避難所運営、水防活動）

〈 防災関係機関 〉

● 情報伝達



情報伝達



● 国土交通省



● 防府市



● 防府市消防本部



● 山口県



● 防府市消防団 小野分団



〈 現地対策本部・避難所運営 〉

（小野地区災害対策連絡会議）

● 災害情報収集・整理



● 災害時要援護者救援



● 防災サインによる避難者誘導



● 避難問合せ・要請対応



● 避難所運営



● 給食配給



〈 水防活動 〉

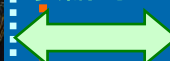
● 漏水状況確認



● シート張り工法



情報収集
要請対応



● 水防活動応援対応



● 月の輪工法



● 排水ポンプ車



防災ブースの体験

① 土のうづくり体験



⑤ 水土のう体験



⑨ 土砂災害調査報告



⑬ 被災地体験紙芝居



② ロープワーク体験



⑥ 災害伝言ダイヤル体験



⑩ 車イス体験



③ 心肺蘇生法体験



⑦ 災害停電対応



⑪ 防災サイン体験



④ 2007 防災訓練DVD放映



⑧ 防災グッズ展示



⑫ 寝具バルーン体験



様々な防災体験

防災意識・自助力の向上

② 午後の部（パネルディスカッション）

パネルディスカッション



佐波川の災いの歴史と異常気象



実働型防災訓練の検証

●山口河川国道事務所



●防府市



●小野公民館長



●山口県



●小野地区自治会連合会長



●防府市消防団小野分団長



地域防災力の重要性を認識

日 23 H20.7.22



山口 16 H20.7.22



聴覚障害者と共通サインでコミュニケーションを図る子供たち

防府小野・佐波川はんらん想定

防災訓練、住民200人 聴覚障害者誘導、児童も

防府市の小野地域で二十一日、佐波川流域防災訓練があった。周辺住民約二百人を含む約二百八十人が参加し、住民自身が状況を判断して避難誘導などに取り組んだ。小野小学校の児童有志十七人は聴覚障害者の避難誘導にも挑戦した。

佐波川がはんらんの恐れがあるとの想定で、訓練拠点を同校体育館に設置。同地区は市の北端にあるため、行政などの対応に時間がかかるとして、地元住民や防災ボランティアらが地区災害対策本部を設置。住民からの電話問い合わせに対して、通行可能な道路や避難場所を確認しながら、地域内の七自治会ごとに誘導した。県、市なども各災害対策本部を立ち上げ、対応を確認した。

体育館に聴覚障害者が避難してくると、子供たちが障害者用の待機スペースに

救命ロープの結び方を学ぶ住民
たち＝防府市の小野小体育館



佐波川流域の防府市小野地区で21日、市や県、国土交通省と民間機関のほか、地域住民総勢350人が参加した防災訓練があった。

午前10時すぎ、避難勧告発令の放送で訓練開始。小野小体育館には車いすやNTTの災害伝言ダイヤル、防災グッズ展示など13の体験ブースが設けられ、住民たちが災害時に必要な行動や装備着用に疑似体験した。「防災サイン体験」では小学生

災害時の行動体験も

佐波川流域訓練で住民ら

が聴覚障害者に手でサインを出し、要望を聞き取った。米を蒸してカレーをかける手帳は非常食体験もあった。

全コーナーを回った主婦は「空気で膨らます簡易寝具など、参考になるものが多かった」と話した。実行委員長の斉藤清子・防府市民活動支援センター長は「防災力をつけるにはこうした訓練で地域力を高めていくことが大切」と話していた。

訓練をする前に…。

ワークショップ開催



地域の 防災意識向上！

‘いざ！’という時に備える自助・共助を目的にした訓練の、その前に ----

“災害が発生した！いつ、どのタイミングでどこへ避難を始めますか？”

- 指導 : 防府/防災ネットワーク推進会議 議長 瀧本浩一
- 日時/場所 : 第1回:5月12日、第2回:5月26日 : 19:00~21:00 小野公民館にて
- 対象 : 小野地区住民の方々

